

(2/3。五種)

来年3月 核禁条約会議

岸田政権 オブザーバー参加難色

来年3月に予定されている核兵器禁止条約の第一回締約国会議。核兵器の製造・保有・使用・威嚇の禁止、被爆者支援の義務などの具体的な条約が採択される中、岸田政権はオブザーバー参加に否定的な姿勢を示しています。

日本の参加が世界から注目される中、岸田政権は

今日の日の臨時国会の開催で日本共産党的な姿勢を示しています。

志位和夫委員長は、「唯

一の戦争被爆国として」

まずは締約国会議にオブ

H.K.の口頭討論で、オブ

ザーバーとしての参加に

ついて「こんな形での

（日本の）参加は難しい

ウェー・ドイツが締約国

会議にオブザーバーとしての参加を表明。被爆国

参加に否定的な考えを示

理由を聞いただしまし

林芳正外相は1月、E

ザーバーとしての参加に

ついて「こんな形での

「核の傘」のものである

ドイツやノルウェーが参

加でき、日本ができる

じやる核禁条約の最大の

としたあるべき道です。

た。それに対し岸田文雄首相は、核禁条約には核保有国が1カ国も参加しないこと主張。「唯一

の戦争被爆国として」核

保有国を譲与せらるよう

努力する」と核禁条約を

警戒する核保有国の立場

を弁し、同条約に否定

的見解を表明。オブザ

ーバー参加にも賛成しま

せんでした。

体験を語り、核兵器の非人道的な破壊力を世界に告発してきた被爆者です。「広島の総理大臣と

して核廃絶に全力を尽くす」と繰り返し述べてき

たにもかかわらず被爆者

に背を向ける岸田首相の姿勢は許されません。核

禁条約にオブザーバー参

加し、核兵器の恐ろしさ

を国際社会に訴えること

こそ「唯一の戦争被爆国

としたあるべき道です。